

オリジナルユリの開花球養成（第74号追補）

農業センター

1 取り上げた理由

普及に移す技術第74号では本県が育成したオリジナルユリ「杜の乙女」、「杜の精」、「杜のロマン」の培養子球からの開花球養成の作型を取り上げた。今回は培養子球とリン片繁殖の両方を組み合わせた球根増殖技術を検討した結果、成果が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 培養子球の植え付けから開花球または親球の肥大まで1～2年間を要する。リン片繁殖による開花球養成は約2年間を要する。実際には培養子球とリン片由来の子球を併用し、優良種苗として維持、更新する。

オリジナルユリ球根養成の作型

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
1年目 春植え	培養子球植付け												球根養成	Aへ
												0.5g以上	目標球重 6.4g	
1年目 秋植え	培養子球植付け			球根養成									Aへ	
												0.5g以上	目標球重27g	
2年目 親球 養成	A				球根養成				親（開花）球根掘上				リン片 繁殖へ	
3年目 リン片 繁殖	リン片 繁殖	子球植付け			萌芽				球根養成				目標球重11g	
												(3ヶ月)	自然低温遭遇	
4年目 仕上げ 栽培	球根養成										開花球収穫			
												3輪開花球の目標球重30g		

目標球重は3品種共通（ほ場試験結果の平均値）

3 利活用の留意点

- 1) 雨よけハウス内で栽培し、基肥は春植えで半年間栽培する場合、全量で3要素各1.5kg/aとし、基肥と追肥に分ける。1年間栽培する場合は全量で3要素各2.5～3.5kg/aを基肥と追肥に分ける。
- 2) 子球の植え付け深度は5cm、植え付け間隔は10～12cmとし、マルチ栽培で地表の乾燥を防ぐ。
- 3) リン片繁殖法はリン片挿しと袋詰め法がある。

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 組織培養種苗生産システムの開発(平成9~11年)

2) 参考データ

表 - 1 培養子球からの球根肥大

作型	基肥 (kg/a)	追肥 (kg/a)	球重(g)		
			杜の乙女	杜の精	杜のロマン
春植え	0.75	0.375 x 2	8.5	12.0	7.1
秋植え	1.0	0.5 x 3	23.6	27.7	28.7

(1) 春植えは平成11年5月7日に植え付け,平成11年10月15日に掘上調査。

(2) 秋植えは平成11年10月13日に植え付け,平成12年10月4日に掘上調査。

(3) 雨よけハウスで栽培し,モミガラマルチを施した。

表 - 2 リン片繁殖により生産された子球の球根肥大

子球の球径 (mm)	追肥回数	球重(g)		
		杜の乙女	杜の精	杜のロマン
2~5	3	9.2	5.0	11.1
	5	9.4	6.3	10.4
5~10	3	9.0	12.0	14.1
	5	12.3	13.5	18.2

(1) 袋詰め法により生産した子球を平成11年12月20日に雨よけハウス内に植え付け。

(2) 基肥として3要素各1.0kg/a,追肥は1回につき0.5kg/a施用した。

(3) 平成12年10月5日に収穫。

表 - 3 球根の直径,球周,球重,採取できるリン片の枚数の関係

直径(cm)	1.0	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	6.0	7.0
球周(cm)	3	6	8	9	11	13	14	16	19	22
球重(g)	1.5	6.4	11	17	25	34	45	57	85	120
リン片数	0	1	4	7	10	13	16	19	25	31

(1) 球周(x)と球重(y)の回帰式から推定。 $y = 0.30x^2 - 1.26x + 2.49$

(2) 球周(x)と0.5g以上のリン片数(y)から推定。 $y = 1.92x - 11.1$

(3) 3品種を平均化し,回帰式を推定。

3) 発表論文等

なし